

主体的な学びと「振り返り」の相互関係の考察

学習開発分野(19220906) 菅 原 慧 美

本研究では、朗読劇で表現するという小学校高学年国語科の学習を通して「振り返り」の視点から主体的な学びへの影響を考察している。その結果、「振り返り学習」をデザインし実施することが「振り返る力」を育むスタートであること、子ども達の「振り返り」には、仲間との学び合いが素直に表現され、それが学びに向かう力や人間性と深く関わっていること等がわかった。

[キーワード] 振り返り, 主体的な学び, マネジメント

1 問題の所在と目的

新学習指導要領の策定に関わる中央教育審議会答申(平成 28 年 12 月)では、「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか。子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味づけたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。」と述べている。このことから、「振り返り」は新学習指導要領における「主体的な学び」をつくる上で重要なポイントになっていると考える。

これまでの教育実習における授業や県内小学校を訪問した際の授業での「振り返り」では、例えば、「友達と活動できて楽しかった。」「今日の学習で……がわかったのでよかった。」等の単なる学習活動の事実や理解にとどまり、学び方や新たな気づき、次の学習に繋がる課題等をもつところまでは至っていない内容が多く見られた。

しかし、筆者が学部 3 年次(2017)から 3 年間スクールサポーターとして授業参観や教育活動等の支援をしてきた県内 T 小学校 M 教諭が担任する子ども達(小 4)は、授業の「振り返り」の中で、わかったことや感想に加え、授業での自分の姿を振り返るとともに、学びにおける友達との関係性や自分の学び方等について触れている豊かな「振り返り」が見られた。

M 教諭の授業で豊かな「振り返り」が見られるのはなぜか。まず、このことについて M 教諭の授業観察及び学級経営等の聞き取りから考察した。

授業の様子からは、多くの子ども達に自分の考えをきちんと言葉で表現する力、さらには友達と考えを話し合う力が見える。そして教師は話し合いの中での言葉 1 つ 1 つを板書の中で繋げ、子ども達の思考の深まりを支援している。「主体的、対話的で深い学び」が子どもの「振り返り」を豊かにしていると言える。また、学級経営において M 教諭は、「事実を振り返る力」を学級目標の 1 つに掲げ、具現化のための学級カリキュラムを作成して、学習や生活全体を通してその力を育てている。

本来、「主体的な学び」は豊かな「振り返り」の必要条件にはなるが、十分条件になるとは言い切れない。M 教諭の学級の子ども達の豊かな「振り返り」は、主体的な授業と同時に教育活動全体で習慣化された「振り返り活動」で育成された「振り返る力」の両方が影響していると考えられる。この事実から、M 教諭が実践している、自己の学習を再現し、よさや課題に気づく「振り返る力」を育むことが大切であると言える。しかし、この「振り返る力」は、授業の節目で「振り返り」を継続的に実施していく中で自然に育つのか、それとも、発達段階に応じて「振り返り方」を学び、活用できるようになり、そのことが次の「主体的な学び」に繋がり、それが豊かな「振り返り」を生み出しているのかどうかかわらなかった。

そこで、昨年度は「主体的な学びと振り返りにはどのような相互関係が見られるのか考察すること」を目的とし研究を進めた。その結果、「①学習の見通しと具体的な活動のある主体的な学びにおいては学習の達成感を持ちやすく、子どもの自己評価が高くなること」「②自己課題は振り返る際の

以上のことからプレゼンテーションⅡでは、子どもの学習状況に応じた柔軟な「振り返り」の実施や、振り返る意欲や思いを言語化する手立てを講じ、「振り返り」の視点から「主体的な学び」への影響を考察し、その成果と課題を明らかにする。

下記の2つのことを研究の方法として進める。

梶浦(2020)は「〈どの様なねらいを持って振り返りをさせるのか〉, 〈その振り返りの方法で得られる学習効果をどう見積もっているのか〉, 〈その学びのねらいと振り返りの方法は適合しているのか〉 など, 意図的, 計画的, 継続的な振り返り指導の構想を持つ必要があるのだ。」と, 「振り返り」の学習としての位置づけの重要性を述べている。

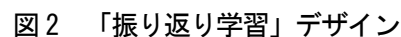
「振り返り」の学習を意図的・計画的・継続的に進めるために、対話・協働的な「振り返り」、個人的な「振り返り」、浅い「振り返り」、深い「振り返り」の4つの「振り返り」活動を設定している。これらの4つの「振り返り」は学習内容に応じて自然に行われることが重要である。



をもとに、次につなげる振り返りのできる子ども」を重点目標に掲げ、「振り返り」を学習として位置づけると共に、目的や状況に応じた「振り返り」を意図し、計画に掲げ、実践していたということである。

このことから、「振り返り」を学習として位置づけ、その目的や方法・活動・内容・事柄を明確にしていくとともに、目的や状況に応じた「振り返りマネジメント」を実施する。特に1人学びや対話を通しての課題解決、協働での制作学習等、学習活動や内容に応じた「振り返り学習」を工夫し、「振り返り」が「主体的な学び」にどう影響するか考察していく。また、自学での「振り返り」についても併せて検証する。

今回は図2に示すように、小学校高学年国語『大造じいさんとがん』（東京書籍：物語教材）の学習を軸に「振り返りの学習」をデザインしたカリキュラムづくりを行い、実践することにした。



自学での「振り返り」については1回目の宿題を出す前に時間を取り、「振り返り」においての場面の切り取り方を子ども達に教える。さらに、毎週、自学の「振り返り」を集めてコメントを付けていく。切り取り方が上手な子どもがいれば、次の自学の宿題を出す前に子ども達に紹介を行い、場面の切り取り方の具体的なイメージができるようにしていく。

– 101 –

とを分けて実施する。毎時間の子どもの振り返りを多角的、継続的に分析・考察していくと共に、「振り返る力」を育むための支援として、1人1人の「振り返り」に寄り添ったコメントを行う。

3 実践

対象は山形県内Y小学校の5年生(1学級33人)である。日頃から週末の宿題に自学として学校生活における「振り返り」や週末の出来事についての「振り返り日記」に取り組んでいる。各授業の中では、短い時間であっても「振り返り」をする習慣がある。「振り返り」の視点が与えられる場合もあれば、視点が与えられずに自由に「振り返り」を書くときもあるが、どちらも自然に書いている。また、「今日は……だったから次は……をがんばりたい。」という次への意欲についても書いている子ども達が多い。

国語の物語教材については文章から人物像を想像し語り合うことができる一方で、すぐれた表現から情景を描くこと、思いを朗読で表現すること等に課題を抱える子どももいる。

国語の単元を貫く課題として、『大造じいさんとがん』の魅力を朗読劇で伝え合おう。～すぐれた表現に着目して～を設定し、子ども達と共有した。

はじめに1人学びを行った。ここでは1人読みの中で物語と対話することを目的とし、文章中の語句調べをしたり、文章を読みながら書き込みをしたりした。家庭学習とも連携して実施する学習のため、子ども達が普段使用している国語のノートに見開きにウェビングマップを活用

した「振り返り」を行った。中心には『大造じいさんとがん』を読んだ初発の感想を書き、そこから物語を読むごとにわかったことや疑問に思ったこと等を自由に付け足し、ウェビングした。次に、このウェビングマップを基に話し合いながら、朗読劇づくりのポイントを3つ整理した。その3つのポイントを意識しながら『大造じいさんとがん』の4つの場面ごとに班で朗読劇づくりを行った。そして、最後には、「朗読劇発表会」に向けて、班ごとに場面を選択したり、役割を分担したりして朗読劇をつくり、その成果を発表した。

『大造じいさんとがん』の全授業実践については表1に示す通りである。『大造じいさんとがん』の単元の中で計11回の「振り返り」をノートに行った。「振り返り」の内容は具体的に指示する場合と、あえて指示せず自由に書く場合とを分けて行った。

また、国語の学習と並行して週末の宿題である自学の「振り返り」についても「生活の中の一瞬、一点に着目して振り返りをしよう。」というテーマ

表1 『大造じいさんとがん』の全授業実践と「振り返り」の実施日

全授業内容(活動内容)	振り返り
・国語①「どんな朗読をしたいか話し合おう。」 導入(朗読とは何かについて知る。『大造じいさんとがん』の範読をきく。)	
・国語②「友達と話したり、本文を読んだりして、感想マップをつくろう。」 単元を貫く課題を知る。前時に引き続き感想マップづくりを行う。	
・国語③「友達と話したり、本文を読んだりして、感想マップをつくろう。」 前時に引き続き感想マップ作りを行う。	9/16
・国語④「朗読をするときのポイントを考えよう。」 どんな朗読にしたいか、朗読をする際のポイントづくりを行う。	9/17
・国語⑤「三つのポイントを意識して朗読劇をつくろう。」 前時でまとめた3つのポイントを意識し、班ごとに第一場面の朗読劇づくりを行う。	9/18
・国語⑥「三つのポイントを意識して朗読劇をつくろう。」 前時に引き続き班ごとに第一場面の朗読劇づくりを行う。	9/23
・国語⑦「三つのポイントを意識して朗読劇をつくろう。～言葉に注目して～ 班ごとに第二場面の朗読劇づくりを行う。	9/24
・国語⑧「三つのポイントを意識して朗読劇をつくろう。～こだわりをもって～ 班ごとに第三場面の朗読劇づくりを行う。	9/25
・国語⑨「三つのポイントを意識して朗読劇をつくろう。～なりきって～ 班ごとに第四場面の朗読劇づくりを行う。	9/29
・国語⑩「み力が伝わる朗読劇をつくろう。」 班ごとに朗読したい場面を決め役割分担をし、選択した場面についての朗読劇づくりを行う。	9/30
・国語⑪「これまでの学習を活かして、朗読劇をつくりあげよう。」 前時に引き続き班ごとに選択場面の朗読劇づくりを行い、朗読劇の練習を行う。	10/1
・国語⑫「これまでの学習を活かして、朗読劇をつくりあげよう。」 前時に引き続き、朗読劇の練習を班ごとに行う。	10/2
・国語⑬『大造じいさんとがん』のみ力を朗読劇で伝え合おう。～すぐれた表現に着目して～ 朗読劇の発表会を行う。	10/6

で計4回の「振り返り」を行った。

4 結果と考察

表2は国語の単元『大造じいさんとがん』（朗読で表現する）の各授業の子どもの「振り返り」と教師の評価をまとめたものである。表2の中に示している評価基準であるが、“自己課題”の欄は自己課題について触れていれば○、触れていなければ×としている。“学習状況”の欄は、子どもの学習状況の評価である。評価段階は、自己の今日の学習状況について書いていなければ1、何かしら書いていれば2、自分の変容について触れていたり前回の「振り返り」に触れたりしていれば3の3段階とした。“次へ”の欄は、次の学習に向けて

何を頑張りたいのか、どのように取り組みたいのか等書いていけば○、書いていなければ×としている。

(1)表2全体から見えること

①自己の学習状況の平均値

学級全体の自己の学習状況の平均値を見ると、9月18日の第一場面の朗読劇づくりから10月2日の朗読劇発表会に向けた班活動までで平均値が徐々に上がっていることがわかる。

毎時間「振り返り」を行うことで、自己の変容に触れるようになったり、前回の「振り返り」に触れ、前回の自分と今回の自分を比べたりする事例が増えている。自己の変容に触れることは自分の姿をメタ認知しているとも言える。これは、「自

表2 評価（ノートの毎時間の「振り返り」より）

名	班	項目	9/16	9/17	9/18	9/23	9/24	9/25	9/29	9/30	10/1	10/2	10/6	名	班	項目	9/16	9/17	9/18	9/23	9/24	9/25	9/29	9/30	10/1	10/2	10/6									
A	1	自己課題	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	R	5	自己課題	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×									
		学習状況	2	2	2	2	2	3	3	3	2	3	2			3	2																			
		次へ	×	×	○	○	○	×	○	×	×	○	×			×	×																			
B	1	自己課題	×	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	S	5	自己課題	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	×									
		学習状況	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2			2	2																			
		次へ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○																			
C	1	自己課題	×									×	○	T	5	自己課題	×	×			○	×	×	×	○	○	×									
		学習状況	2									2	2																							
		次へ	×									×	×																							
D	1	自己課題	×	○	×	×	○	×	○	○	○	○	×	U	5	自己課題	×	×	×	○	○	×	○	○	○	×	×									
		学習状況	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3																							
		次へ	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○			○	○																			
E	2	自己課題	○	×	○		×	×	×	×	×	○	×	V	6	自己課題	×	○	○	×	○	○	○	○	×	○	×									
		学習状況	3	2	2		2	2	2	2	2	3	3																							
		次へ	○	×	○		○	×	×	×	×	○	○			○	○																			
F	2	自己課題	○	×	○	×	○	×	×	×	×	○	×	W	6	自己課題	×	×	○	○	×	×	○	○	×	○	×									
		学習状況	2	2	2	3	2	2	2	2	3	3	3																							
		次へ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○																			
G	2	自己課題	×	×	○	○	○	×	×	×	○	○	×	X	6	自己課題	×	×	×		×	○	×	○	×	○	×									
		学習状況	2	2	2	2	2	3	2	3	2	3	2																							
		次へ	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	×			×	×																			
H	2	自己課題	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	×	Y	6	自己課題	×	○		×	×	○	○	×	○	○	×									
		学習状況	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																							
		次へ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×																							
I	3	自己課題	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	Z	7	自己課題	○	×	×		×	×	×	○	×	×	×									
		学習状況	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3																								
		次へ	○	○	×	○	○	×	×	×	○	○	○			○	×																			
J	3	自己課題	×	×	×	×		×	×	×	×	○	×	AB	7	自己課題	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○									
		学習状況	2	2	2	2	3	2	2	2	3	2																								
		次へ	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×			×	×																			
L	3	自己課題	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	CD	7	自己課題	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	○									
		学習状況	2	2	2	2	3	2	3	2	3	3	3																							
		次へ	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	×			○	○																			
M	3	自己課題	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	EF	7	自己課題	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×									
		学習状況	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2																								
		次へ	×	×	×	×	○	○	×	○	○	×	×																							
N	4	自己課題	×	○	×	×	○	○	×	×	×	○	×	GH	8	自己課題	×	○	○	○	○	○	○		×	×	×									
		学習状況	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2																								
		次へ	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×																								
O	4	自己課題	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	IJ	8	自己課題	×	×	×		×	×	×	×	×	×	×									
		学習状況	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3																							
		次へ	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×			×	×																			
P	4	自己課題	×	×	×	×	×	×	×		×	×	○	KL	8	自己課題	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○									
		学習状況	3	2	2	2	3	2	2		3	3	2																							
		次へ	×	×	○	×	×	○	○		○	×	○			○	○																			
Q	4	自己課題	×	×	×		×	○	○	×	○	×	○	MN	8	自己課題	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×									
		学習状況	2	2	2		2	2	2	2	3	2	3																							
		次へ	×	×	×		○	○	○	○	○	×	○			×	○																			
																自己課題○の人数										3人	5人	14人	9人	15人	10人	11人	12人	15人	20人	10人
																学習状況の平均										2.13	2	2.07	2.12	2.1	2.13	2.19	2.225	2.33	2.64	2.41
※全体の傾向及び分析・考察に支障がないことを踏まえ、 班や個人が特定されないように班の人数等一部調整																次へ○の人数										13人	19人	24人	24人	27人	23人	17人	22人	23人	18人	14人
																自己課題と次へが両方○										2/32 6%	5/31 16%	13/29 49%	9/26 35%	15/31 48%	7/32 22%	9/31 29%	12/31 39%	13/33 40%	11/33 33%	5/32 16%
																自己課題と次へが両方×										18/32 56%	11/31 35%	4/29 14%	4/26 15%	4/31 13%	6/32 19%	12/31 39%	9/31 29%	8/33 24%	6/33 18%	12/32 38%
																自己課題と次へセットの割合										62%	51%	63%	50%	61%	41%	68%	68%	64%	51%	54%

※全体の傾向及び分析・考察に支障がないことを踏まえ、
班や個人が特定されないように班の人数等一部調整

己の学習活動を振り返って次につなげる主体的な学び」と関わっていると考えることができる。

②自己課題と次への関係性

表 2 を見ると、自己課題の項目も次への項目も共に書いており○になっている割合は 9 月 16 日の「振り返り」から 10 月 6 日までで平均で約 30%。自己課題の項目も次への項目も共に書いておらず×になっている割合は 9 月 16 日の「振り返り」から 10 月 6 日までで平均 27%となっている。さらに、これらを合わせると自己課題の項目と次に向けての項目がどちらも○または、どちらも×となっている割合は 9 月 16 日の「振り返り」から 10 月 6 日までの「振り返り」の平均で約 58%と、半数を超えた。特に 9 月 29 日と 9 月 30 日は 68%と、7 割近くが自己課題を書いていれば次に向けても書いている、自己課題を書いていなければ次に向けては書いていないという結果になった。

自己課題という視点をもっていないときは、次の活動でどのような取り組みをしたらよいのかということが見えづらく、反対に自己課題という視点をもっているときには自己課題が見えているため、次の時間に何をしたらよいのかということが見えやすかったのだと考えられる。自己課題をもつことは、次の活動の見通しをもつことに繋がる。見通しをもって自己課題に取り組むことは「主体的な学び」であると考えることができる。

③授業内容が充実していたとき

本単元の主活動である朗読劇づくりは班ごとに行った。班ごとに「振り返り」の内容を見ていくと、授業内容が充実し満足感のある活動になっていたときは、自己課題や次に向けた意欲等にはあまり触れず、満足した思いを「振り返り」に書いていることが多かった。例としては、「学習活動でこんなことがうまくいった。」「ここが見どころです!」というような内容が挙げられる。今日の授業での良かったことをしっかり書くことができるというのは、目標が達成できた自分をメタ認知しているということができる。

反対に、子ども達の中で「今日の学習活動はなかなかうまくいかなかった。」「停滞してしまったな。」という「振り返り」をした時は、あまりうまくいかなかったという思いをもっているため、自己課題について触れたり、「次の時間はこういうふうにしたい。」「こう頑張りたい。」ということについて触れたりしている内容が多かった。これは、

自分達の良くなかったことを評価した場合、そのことを課題として前向きに捉え、次の授業へ向かおうとする姿であると言える。

④班全体としての評価が大きく変わったとき

班ごとに自己課題と次へ向けての項目についての内容を見てみると、班全体として○の数が 3 つ以上増えた場合、逆に 3 つ以上×の数が増えた場合があった。単元を通す中ではどの班でも同じようなことが見られた。③でも述べたように、班での活動が充実しているような場合にはどこがうまくいったのか、今日はどんな活動をしたのかという内容を記述していた。そして、班での活動がなかなか思ったように進まなかったり自分たちの納得のいく練習ができなかったりしたときには、班としての課題について記述したり、自己課題について記述したり、次はどうしたいのかということについて触れて書いている様子が多く見られた。

(2)各班の活動の様子から見えたこと

①班活動を通して仲間と共に成長する姿(6 班)

Y 児は本好きで自分の考えをしっかりとをもっており、自分の思いがあるところには熱量をもって向かうことができる児童である。しかし、班での活動の際には自分の意見や考えを素直に他のメンバーに伝えることができずにいた。朗読劇づくりは Y 児の思う通りにはいかず、Y 児は班で活動することに苦戦しているようだった。

Y 児と同じ班の V 児と W 児はどちらも学習に向かう力が高い。自分の姿を客観的に振り返る力が高いからこそ、次はどんなことをしたらよいのか、何に取り組むとよいのかという具体的な次への課題が見える。班で朗読劇をつくる活動もどんどん進めていた。しかし、Y 児のような想像力豊かな児童と積極的に関わり、協働して朗読劇をつくることに関しては苦手意識をもっており、共にやりたい思いはあるようだったが、Y 児に対してどのように接したらよいのかということがわからずに困っていた。

その中で X 児は普段、積極的なわけでもなく、消極的であるわけでもない。朗読劇づくりの中では、V 児と W 児になかなか自分の意見や考えを素直に言うことができないでいた Y 児の表現のはけ口となっているようだった。班活動の中で不満や意見を Y 児からぶつけられても X 児は責めたり怒ったりすることはなかった。X 児は、どんどん朗読劇づくりを進める V 児、W 児と、そのペースに

ついていけず活動に参画できずにいたY児の間を繋ぐような役割を果たしていた。

このような状況の中で、班活動に苦戦していたY児の正直な思いが「振り返り」に表れていた。次はY児が班活動において、特に苦戦していた国語⑨、国語⑩での「振り返り」である。

【国語⑨ 9月29日】

今日は、「なりきる」をがんばりました。昨日までは「言葉」や「こだわる」などをやりました。私たちの班では、全然なりきれませんでした。だから、次はなりきるようにしたいです。でも、みんなが自分の好きなように行動していてうまく班がまとまりませんでした。これもなりきれなかった理由かもしれませんね。

【国語⑩ 9月30日】

今日は場面を決めました。私は「どこでもいいよ。」と言いました。でも、Xちゃんが勝手に「どこでも読めるらしいよ。」と言っていて少しイラッときました。このような勘違いはやめてほしいです。あと、Xちゃん、ふざけるのもいいかげんにしてほしいです。

Y児は班のメンバーに対する不満を書いている。班活動の様子を見ていても、話し合いに参画することはほとんどなく、班として同じ空間には入るが、不満を多く抱えていることが見て取れるほどだった。ここまでの班活動の様子と「振り返り」を見ていた筆者は、担任に相談し、国語⑩の班活動の際に支援に入ってもらった。H先生は、まずY児にどうして学習に向かうことができないのかという話を聞いた。Y児が他の3人の話や意見に対して納得できないまま活動が進んでしまったようだ。その後、担任と話をしてY児は活動に参画することを決めた。担任はY児から話を聞いた後、他の3人からも話を聞いた。3人はY児がやってくれないことに悩んでいるようであったがY児にやってほしいという思いをもっていた。担任はY児が3人の話に納得していないということ話をした。最後に4人全員に、相手が何を言いたいのか考えないといけないという指導をした。以下は国語⑩のY児の「振り返り」である。

【国語⑩ 10月1日】

今日はだれがどこの行を読むかを決めました。H先生〔担任〕がきて、やっとみんなに自分の話をきいてもらえたかと思うと、H先生が帰ったら3人だけで決めて、3人で話した事を自分に教える。

反対意見を言うと、なにかいいわけを言われて意見が無しにされました。自分の態度も悪いけど…

これまで同様に不満も多く書いてはいるが、最後には“自分の態度も悪いけど…”というように、班活動における自分自身の課題について触れる様子が見られた。これは『大造じいさんとがん』の単元の学習を通して初めてのことだった。以下は国語⑫でY児が書いた「振り返り」である。

【国語⑫ 10月2日】

私はみんなと話をしつづけてくれました。最後の「いつまでもいつまでも見守っていました」が苦手だから練習したいです。

国語⑫の「振り返り」では班員全員で話して朗読劇づくりの活動ができたこと、自分の朗読劇の課題についても触れ、これから練習していきたいと次の活動に対する意欲が見られた。また、班活動の様子を見ていてもこれまでの活動とは全く異なり、4人全員で話をしながら朗読劇をつくる姿を見ることができた。

Y児の姿は授業中の様子から気になってはいたものの、Y児が「振り返り」に素直な思いを書いてくれば何に対して本当に困っているのかわからなかっただろう。授業中の態度を見るだけでは偏った見取りになってしまうかもしれないが、Y児の内面を知ることによってY児の学習の限界がわかり、6班の学びを立て直すことに繋がった。Y児にとって「振り返り」は、自分の素直な思いを表現できる場であったと言える。

②自分とは違う人がいるからこそその学び(4班)

N児は感想マップづくりをし終わった段階で「朗読劇もうできます。」と言っていた。それくらい朗読劇づくりのような表現活動が得意である。実際の班活動を見ていても、感性豊かに感覚的に表現することが得意なようで、朗読劇づくりでの気持ちの表し方や間の取り方も上手だった。書いて表現することはどちらかというと得意ではない児童である。

O児は書くことにとても優れていて、O児が書く文章はとても豊かである。班活動の際は1人でリーダーシップを発揮して進めるというよりは他の班員と共に活動をしながら少しだけ前に出て上手に班を引っ張っているような児童である。

P児は一見すると、そこまで『大造じいさんとがん』の学習に対する意欲は高くなく、それなりに活動をしているのかなと感じる行動や言動が多

い。優しい性格で、友達と関わるのが得意な児童である。

Q 児はあまり積極的ではない子どもである。性格は優しく穏やかで友達との関わりも特に課題を抱えてはいない。

国語⑤から『大造じいさんとがん』を場面に分けて班活動の朗読劇づくりを行った。N 児はこの時点ですでに朗読劇をすることに対して自信があるようだった。それから数時間は何事もなく班員全員で話をしながら進めていた。活動を進めている 4 班だったが、国語⑦であまり積極的ではない Q 児は次のような「振り返り」を書いていた。

【国語⑦ 9 月 24 日】

今日、班の活動では小さな声で読んでいたんですが、N 君がちゃんと読んでと強く言ってきて少し悲しかったです。明日は上手によみたいです。

その後の授業でも Q 児は一貫して自己課題である「声の大きさ」について次のように「振り返り」をしていた。

【国語⑨ 9 月 29 日】

今日、班で話をして、一人ずつ読んでみました。そしたら、私は小さい声で読んでしまったのでたくさん家で練習をして、大きい声で読めるようにがんばっていきたいと思います。班のみんなはとっても上手でした。

【国語⑫ 10 月 2 日】

今日、H 先生（担任）や S 先生に朗読をきいてもらって「ぐっと」というところがとてもよかったです。すごく伝わってきます。」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。私が昨日家でやってきたことは声を大きくしたり、お母さんにきいてもらったりしました。火曜日は班でがんばりたいと思います。

【国語⑬ 10 月 6 日】

「大造じいさんとがん」をやって最初は、大きな声で朗読ができませんでした。でも O 児や P 児がやさしく「だいじょうぶだよ」といつてくれたことがとてもうれしかったです。どこを発表するかということを決めるのがおそくなってしまいました。でも、7 回目ぐらいで自分たちの発表する場所がきまってから家で練習をして少し声が出るようになりました。でも、あまり朗読ができていないということだけ少しわかりました。

授業中の Q 児の様子はいつもの様子と変わることなく他のメンバーに任せ、受け身的のよう

に見えた。しかし、Q 児は単元のはじめに N 児から指摘されたことで悲しくなり、「声の大きさ」が自己課題になったと言える。「振り返り」の経過を見ると自己課題とずっと向き合い、克服しようとしている主体性が見える。授業以外の時間に朗読劇の練習をしていたということも主体性の表れである。単元を通しての強い自己課題は Q 児の学習を支えていたと言える。また、Q 児にとって国語⑦で N 児からの「ちゃんと読んで。」という言葉は気になったと思う。しかし、その N 児から自己課題のきっかけをもらうこととなった。1 人だけで朗読劇をつくっていけば Q 児がこのような自己課題をもつことも無かったかもしれない。Q 児には N 児の厳しい言葉をも素直に受け止めて自己課題とする、人間性が見える。

さらに、P 児は国語⑤までは「がんばりたいです。」「イントネーションが大事だと思います。」など、自己課題の視点で振り返ることもなく、朗読劇に対するイメージもまだ具体的にもつことができていない様子が見られた。しかし、国語⑥では次のような「振り返り」を書いていた。

【国語⑥ 9 月 23 日】

今日やってみて、「ううむ！」の所で N 君がとても上手で朗読に向いていると思いました。

同じ班の N 児の朗読を見たことで、「朗読劇」や「朗読劇づくり」に対するイメージが具体的なものとなった。この「振り返り」を書いてから P 児の「振り返り」には朗読劇の魅力について触れている様子が多く見られるようになる。下記は国語⑥の P 児の「振り返り」である。

【国語⑦ 9 月 24 日】

3 班の朗読を聞いて上手で、情景描写をわかりやすく言ってすごかったし、リアルさもあって大造じいさん風でとても面白かった！すごかった！朗読の楽しさもわかった気がする！と思った。

今回は、単元全体を通して班活動を中心とした学習活動だった。これに加え、班同士でも交流できるように 2 班で 1 つのグループをつくり、グループの中で交流する時間や、同じ教室で活動している他の班とも交流する時間を設けるようにした。同じ班の N 児の朗読に感化され、「朗読」や「朗読劇づくり」に対する興味、関心が芽生え、さらにその上で他の班と交流することによって『大造じいさんとがん』の学習に入り込み、よりよい朗読劇づくりの活動に繋がっていった。以下は国語⑦

以降のP児の「振り返り」である。

【国語⑨ 9月29日】

四の場面の「」の所の残雪に話しかけるところを意識して読み、情景描写をしっかりと読むことも意識したいです。

【国語⑩ 10月1日】

「大造じいさんとがん」で、朗読が楽しいと思えた。一体感と劇のような楽しい朗読にしていきたいです。

【国語⑫ 10月2日】

昨日行った朗読よりも圧倒的に上手になっていたし、とっても楽しくなった。

このように意識して読む箇所が具体的にになり、朗読劇発表会へ向けての意欲も見せている。P児の国語⑬朗読劇発表会本番の「振り返り」を以下に示す。

【国語⑬ 10月6日】

これまで「大造じいさんとがん」をしてきて、朗読劇をつくってきたことが楽しかった。リアルに言うのが少し難しくて本番前はよくわからなくなっていた。でも、本番になったらあまり緊張しなかった。1～3, 5～7班の朗読劇を見て自分たちと似ている所、違うところがたくさんあって課題になった所もあれば、高め合えるところもあったからよかった。これからも高め合っていきたい。

P児は班で朗読劇づくりに取り組んできたことや他の班と交流してきたことは、自分自身や班の朗読劇を高め合うことと捉えている。高め合いながら次に向かっていくこのような姿は「主体的な学び」の姿であると言える。P児の「振り返り」を見るとN児の表現に素直にあこがれていた。友達の良さを素直に認め、あこがれるP児の人間性が見える。

P児は授業中に「すごい!」や「楽しい!」と言葉で表現することはない。しかし、「振り返り」にはこうした素直な気持ちを書いている。P児の授業中の様子だけでは見えない部分が「振り返り」の場があったことで見えたと言える。

子どもの授業中の様子を教師は見ているようで、見えていないことが多いかもしれない。「振り返り」は子ども達のこうした“次に向けて頑張る力”や“良さを認める人間性”等の教師からは見えづらい、「学びに向かう力・人間性等」を支えているとすることができる。

5 到達点と課題

本研究に関する実践と考察から、①「振り返り」学習をデザインし「振り返り」を意図的・計画的・継続的に実施することが「振り返る力」を育むスタートであること、②「振り返り」を通して自己課題をもつことは、次の活動の見通しをもつことに繋がり、「主体的な学び」と深く関わっていること、③子ども達の「振り返り」には、仲間との学び合いが素直に表現され、それが学びに向かう力や人間性と深く関わっていることがわかった。また、④自学として週末に続けて書いていた「振り返り」も、最後の週にはくらしや学習の出来事の一瞬、一点に注目して書く子どもの姿が多く見られた。これは、授業での学びがくらしに繋がったと言える。

今回の実践は一つの単元の中での取り組みであり、「主体的な学び」に向かう「振り返る力」を身に付けたかという点はまだ不十分である。子どもの「振り返り」の表現に「学びに向かう姿や人間性」が見えるようになるには、冒頭で述べた県内T小学校M教諭のように、学級経営全体の中に意図的・計画的に「振り返り」を位置づけ、授業や生活の中で、極自然に且つ必然的に行うことが大切であると思った。これは、学習指導を含む学級経営そのものの課題である。

引用文献

- 梶浦真 (2020) 『小中学校編 I 【第 11 版新指導要領対応・増補版】 アクティブ・ラーニング時代の「振り返り指導」入門ー「主体的な深い学び」を実現する指導戦略ー』, 教育報道出版社.
- 梶浦真・小林和雄 (2019) 『【第 6 版】〈主体的・対話的で深い学びを実現する〉【振り返り指導】の基礎知識ー質の高い授業づくりを支える理論と実践《Ver. 1. 5》ー』, 教育報道出版社.
- 文部科学省(2017)「幼稚園, 小学校, 中学校, 及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)補足資料」https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/20/1380902_4_1_1.pdf(最終閲覧日 2021 年 1 月 27 日)

*A Consideration of Reciprocity between
“Proactive Learning” and “Reflections”*
Satomi SUGAWARA